実務経験のある教員等による授業科目一覧

【アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
スポーツ倫理学	1	松岡　紗也香		
トレーニング科学1	2	川上　吉晃		
保健体育理論1	2	川上　吉晃		
保健体育理論2	2	川上　吉晃		
スポーツ競技各論	2	吉田　裕也		
スポーツ医学1	2	松岡　紗也香		
スポーツ栄養学1	1	静間　佳代子		
トレーナー基礎演習	2	都地　英雄		
アスレティックトレーナーの役割	2	川上　吉晃		
トレーニング科学2	2	辰見　康剛		
トレーニング指導者実習	1	川上　吉晃	吉田　裕也	
検査と測定の手法1	1	吉井　剛		
検査と測定の手法2	1	吉井　剛		
運動処方論	2	川上　吉晃		
体力測定法	1	川上　吉晃		
テーピング・手技療法実習	1	加納　賢一		
トレーニング指導者理論1	2	吉田　裕也		
トレーニング指導者理論2	2	吉田　裕也		
運動器の解剖と機能1	1	中田　浩一		
運動器の解剖と機能2	1	中田　浩一		
運動器の解剖と機能3	1	中田　浩一		
スポーツ栄養学2	2	静間　佳代子		
救急処置	2	都地　英雄		
AT概論1	2	浪尾　敬一		
AT概論2	2	浪尾　敬一		
AT概論3	2	都地　英雄		
AT概論4	1	吉田　裕也		
AT概論5	2	都地　英雄		
スポーツ動作の観察と分析	1	川上　吉晃		
コンディショニング1	2	清田　祥之		
コンディショニング2	1	原　賢二		
コンディショニング3	1	清田　祥之		
ＳＡＱトレーニング実習	1	油田　信隆		
アスレティックリハビリテーション1	2	吉井　剛		
アスレティックリハビリテーション2	2	目良　寛巳		
アスレティックリハビリテーション3	2	目良　寛巳		
スポーツ外傷と障害1	2	岩本　英明	松岡　紗也香	
スポーツ外傷と障害2	2	山田　眞人	松岡　紗也香	

実務経験のある教員等による授業科目一覧

【アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
スポーツ医学2	2	山田　眞人	安永　英樹	畠山　昌久
		松岡　紗也香		
救急処置実習	1	浪尾　敬一		
トレーナー実習1	1	川上　吉晃	都地　英雄	松岡　紗也香
		吉田　裕也		
トレーナー実習2	1	川上　吉晃	都地　英雄	松岡　紗也香
		吉田　裕也		
トレーナー実習3	1	川上　吉晃	都地　英雄	松岡　紗也香
		吉田　裕也		
トレーナー実習4	1	川上　吉晃	都地　英雄	松岡　紗也香
		吉田　裕也		
トレーナー実習5	1	川上　吉晃	都地　英雄	松岡　紗也香
		吉田　裕也		
トレーナー実習6	1	川上　吉晃	都地　英雄	松岡　紗也香
		吉田　裕也		
トレーナー応用実習1	1	村上　智明	松岡　紗也香	
トレーナー応用実習2	1	松岡　紗也香		
トレーナー応用実習3	1	都地　英雄		
トレーナー応用実習4	1	都地　英雄		
生涯スポーツトレーナー実習1	1	川上　吉晃		
生涯スポーツトレーナー実習2	1	川上　吉晃		
フィットネスエクササイズ	1	藤﨑　道子		
小　　計	**77**			

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	スポーツ社会学					担当者名	寺本　敦司					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	■スポーツ指導者として、「スポーツの意義と価値」について改めて考えてみる。 ■スポーツ指導者として「スポーツ権」について学習していく。 ■スポーツ組織の運営、あり方について学習し、安定した組織運営のマネジメントを学習していく。
成績評価	■出席点 ■終講試験 ■授業への取り組み姿勢
その他	寺本敦司（実務経験なし）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	リファレンスブック	（公財）日本スポーツ協会	
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス、スポーツの意義と価値について ～社会の中におけるスポーツの価値～
2	スポーツの意義と価値について ～現代社会とスポーツの価値～
3	スポーツの意義と価値について ～地域社会におけるスポーツの価値のとらえ方～
4	スポーツの意義と価値について ～政治的・政策的な価値とスポーツプロモーション～
5	文化としてのスポーツ ～スポーツとは何か～
6	文化としてのスポーツ ～「スポーツ宣言日本」におけるスポーツの意義と価値～
7	文化としてのスポーツ ～オリンピズムにおけるスポーツの意義と価値の捉え方～
8	スポーツの価値を守るスポーツ権 ～スポーツの定義、基本的人権としてのスポーツ、スポーツ権の内容について～
9	スポーツの自治ーガバナンスとコンプライアンスー ～スポーツの自治、グッドガバナンスの確立、コンプライアンスについて～
10	スポーツ組織のマネジメント ～スポーツ組織の持続可能性、「目的」のマネジメント、「補完」のマネジメントについて～
11	スポーツ組織のマネジメント ～地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」について～
12	スポーツ組織のマネジメント ～スポーツ指導者に求められるマネジメント～
13	スポーツ組織のマネジメント ～非営利スポーツ組織、スポーツ組織のマネジメントについて～
14	スポーツ組織のマネジメント ～スポーツ組織マネジャーのコンピテンシーについて～
15	終講試験、まとめ

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	スポーツ倫理学					担当者名		寺本　敦司・松岡　紗也香			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							16				

授業概要	■スポーツ指導の現場において、起こりうる倫理的問題について学習していく。 ※特に、暴力・ハラスメント・ドーピング問題について学習していく。 ■スポーツ指導者の反倫理的言動が何かを学習し、その言動がアスリートなどにどのような影響を与えていくのかを学習していく。 ■スポーツインテグリティとは何かを学習し、スポーツ界全体を見直してために必要なものを学習していく。
成績評価	■出席点 ■終講試験 ■授業への取り組み姿勢
その他	寺本敦司（実務経験なし）、松岡紗也香（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	リファレンスブック	（公財）日本スポーツ協会	
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	スポーツ倫理学とは
2	暴力の根絶について
3	ハラスメントの根絶について
4	スポーツにおけるインテグリティの確保について
5	スポーツ仲裁について
6	アンチドーピングについて（歴史、アンチドーピング機構）
7	ドーピングコントロールの全体像とドーピング検査について
8	終講試験、まとめ

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	スポーツ指導学	担当者名	寺本　敦司

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数	30					

授業概要	■日本スポーツ協会公認スポーツ指導者が負う責任、役割について学習していく。 ■日本スポーツ協会公認スポーツ指導者として、安全なスポーツ環境を構築・問題発生時の対処法の流れについて学習していく。 ■各年代（ジュニア期、中高年）におけるコーチングの留意点、運動プログラム作成に必要なことを学習していく。 ■ハイパーパフォーマンスとは何かを理解し、それを実践していく上で、コーチに必要なものは何かを学習していく。
成績評価	■出席点 ■終講試験 ■授業への取り組み姿勢
その他	寺本敦司（実務経験なし）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	リファレンスブック	（公財）日本スポーツ協会	
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス　日本スポーツ協会公認スポーツ指導者が負う責任と求められる役割
2	コーチの果たすべき役割
3	安全なスポーツ環境の構築（予防）と問題発生時の対処法
4	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
5	時代をリードするコーチング
6	ジュニア期のコーチングの留意点
7	年齢区分から見たコーチングの留意点
8	トレーニングの至適年齢、遺伝の影響、運動部活動でのコーチングの留意点
9	中・高年者へのコーチング（運動指導）の留意点
10	性別の考慮
11	ハイパーパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング①
12	ハイパーパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング②
13	障害者のスポーツの現状と課題
14	障害者スポーツ指導者の育成、（公）日本障がい者スポーツ協会のビジョン
15	終講試験、まとめ

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	コーチング学	担当者名	寺本　敦司

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数	30					

授業概要	■公認スポーツ指導者に最も必要とされる基本的な思考や態度・行動について学習し、グッドコーチに求められる人間力を学習していく。 ■コーチに求められる役割、知識・スキルについて学習していく。 ※具体的には、コミュニケーションスキル、リーダーシップスキル、プレゼンテーションスキル、ファシリテーションスキルなど
成績評価	■出席点 ■終講試験 ■授業への取り組み姿勢
その他	寺本敦司（実務経験なし）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	リファレンスブック	（公財）日本スポーツ協会	
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス
2	コーチングとは（コーチングとコーチを定義する）
3	グッドプレイヤーを育てるグッドコーチ
4	コーチに求められる知識とスキル（コーチング文脈）
5	コーチ求めらえる知識とスキル（専門的知識）
6	コーチ求めらえる知識とスキル（対他者の知識）
7	コーチ求めらえる知識とスキル（対自己の知識）
8	対他者力を磨こう（コミュニケーションスキル）
9	対他者力を磨こう（リーダーシップスキル）
10	対他者力を磨こう（プレゼンテーションスキル）
11	対他者力を磨こう（ファシリテーションスキル）
12	対他者力を磨こう（その他の対他者スキル）
13	対自己力を磨こう
14	ファシリテーション実践
15	終講試験、まとめ

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	トレーニング科学1	担当者名	川上　吉晃

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数		30				

授業概要	■スポーツトレーニングの基本的な考え方・理論体系について学習していく。 ■トレーニングの原理・原則（全面性、意識性、漸新性、個別性、反復性）について学習していく。 ※全面性、意識性、漸新性、個別性、反復性 ■トレーニングの種類について学習していく。 ※形態別分類、体力要素による分類
成績評価	■出席点 ■終講試験 ■授業への取り組み姿勢
その他	川上吉晃（スポーツジムにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	リファレンスブック	（公財）日本スポーツ協会	
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	スポーツトレーニングサイクル、スポーツパフォーマンス構造論
2	トレーニング目標論、トレーニング手段・方法論
3	トレーニング計画論
4	トレーニングアセスメント①
5	トレーニングアセスメント②
6	トレーニングと休養のバランス
7	身体のしくみと働き①（神経系）
8	身体のしくみと働き②（骨格筋・骨格）
9	身体のしくみと働き③（関節）
10	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給
11	トレーニングの種類①（インターバルトレーニング、レペティショントレーニングなど）
12	トレーニングの種類②（体力要素による分類のトレーニング）
13	スキルトレーニング
14	スポーツバイオメカニクス
15	終講試験、まとめ

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	保健体育理論1	担当者名	寺本　敦司　川上　吉晃

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						32					

授業概要	・健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な運動指導を行えることが、今後の健康維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。
成績評価	資格認定試験結果、小テスト、授業態度、出席点などを総合的に評価する。
その他	寺本敦司（実務経験なし）、川上吉晃（スポーツジムにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	生涯スポーツトレーナー教本	水嶋昭彦、中尾繁樹、油谷信隆他	（学）国際学園
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	生涯スポーツトレーナーとは
2	ZERO－100プロジェクトについて
3	ファンクショナルトレーニングとは
4	上肢・下肢の動きについて
5	全身を連動させた回旋運動について プログラミングの重要性について
6	運動指導におけるコーチングについて
7	解剖学（骨の役割・構造、筋の分類、骨格筋について）
8	人体の区分と名称、代表的な関節運動について
9	子ども・高齢者運動指導の基礎知識について
10	医療行為と医療類似行為、禁止事項について
11	実技（Ｔボール）
12	実技（Ｔボール）
13	実技（Ｔボール）
14	実技（Ｔボール）
15	まとめ
16	生涯スポーツトレーナーベーシック試験

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	保健体育理論2					担当者名		寺本　敦司　川上　吉晃			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							32				

授業概要	・健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。 これからの子どもから高齢者の特徴について学習し、それらの人々を健康維持増進に導いていける指導者養成が必要である。それに伴う必要な知識を実技を交えて学習していく。
成績評価	資格認定試験結果、授業への出席状況、授業態度を総合的に評価していく。
その他	寺本敦司（実務経験なし）、川上吉晃（スポーツジムにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	生涯スポーツトレーナー教本	水嶋昭彦、中尾繁樹、油谷信隆他	（学）国際学園
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	生涯スポーツトレーナーアドバンスについて
2	背骨コンディショニングについて【実技】
3	背骨コンディショニングについて【実技】
4	超音波について【実技】
5	超音波について【実技】
6	パーソナルストレッチについて【実技】
7	パーソナルストレッチについて【実技】
8	発育発達と不器用さについて
9	発育発達と不器用さについて
10	高齢者と子どもの運動指導について
11	高齢者と子どもの運動指導について
12	ダンス【実技】
13	ダンス【実技】
14	ファンクショナルトレーニングについて
15	ファンクショナルトレーニングについて
16	まとめ・終講試験

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	スポーツ競技各論	担当者名	吉田　裕也

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数	30					

授業概要	・アスレティックトレーナー実技試験の試験科目になりうる競技種目を中心に競技特性・ルール・起こりやすい傷害・トレーニング方法について学習していく。 ・実際のシチュエーションを想定したトレーニングプログラムの構築を行う。
成績評価	■出席点・・・15% ■平常点・・・15% ■発表・提出資料・・・70%(100点満点で7割計算)
その他	吉田裕也（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	必要に応じてプリント配布		
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス
2	陸上競技(短距離・長距離・跳躍・投擲)・競泳
3	トレーニングプログラム作成
4	サッカー・バスケットボール
5	トレーニングプログラム作成
6	バレーボール・ハンドボール
7	トレーニングプログラム作成
8	野球・ラグビー
9	トレーニングプログラム作成
10	格闘技(柔道・レスリング)・体操
11	トレーニングプログラム作成
12	スキー・スケート
13	トレーニングプログラム作成
14	実技指導発表①
15	実技指導発表②

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	スポーツ医学1	担当者名	松岡　紗也香

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数	30					

授業概要	■スポーツと健康とのかかわりについて学習していく。 ■アスリートの健康管理（メディカルチェック・感染症対策）について学習していく。 ■アスリートの内科的障害（急性の障害、慢性の障害、特殊環境下）について学習していく。 ■女性アスリートの障害と対策（月経、摂食障害、貧血など）について学習していく。 ■外傷・障害の予防（頭頸部、上肢、体幹、下肢）について学習していく。 ■コンディショニング（ストレッチング・テーピングなど）、救急蘇生法について学習していく。
成績評価	■出席点 ■終講試験 ■授業への取り組み姿勢
その他	松岡紗也香（スポーツーチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	リファレンスブック	（公財）日本スポーツ協会	
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	スポーツと健康
2	アスリートの健康管理
3	アスリートの内科的障害と対策①（突然死、熱中症）
4	アスリートの内科的障害と対策②（急性心不全、低ナトリウム血症・水中毒、運動誘発アナフィラキシー）
5	アスリートの内科的障害と対策③（慢性の障害）
6	特殊環境における障害、女性アスリートの障害と対策
7	スポーツによる精神障害と対策
8	アスリートの外傷・障害と対策①（障害・外傷の基礎、頭頸部の外傷・障害）
9	アスリートの外傷・障害と対策②（上肢の外傷・障害）
10	アスリートの外傷・障害と対策③（体幹の外傷・障害）
11	アスリートの外傷・障害と対策④（下肢の外傷・障害）
12	コンディショニングの手法①（ストレッチング）
13	コンディショニングの手法②（テーピング）
14	救急処置（救急蘇生法、RICE処置）
15	終講試験、まとめ

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	スポーツ栄養学1	担当者名	静間　佳代子

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	1				授業時間数	16					

授業概要	■5大栄養素の役割、日常の活動レベルに応じた栄養摂取の目安について学習していく。 ■サプリメントの摂取について考えさせ、利用するにあたり注意点を学習していく。 ■ウエイトコントロール・貧血予防・遠征時・コンディショニングづくりといった目的に合わせた栄養摂取の方法を学習していく。
成績評価	■出席点 ■終講試験 ■授業への取り組み姿勢
その他	静間佳代子（食品会社において栄養士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	リファレンスブック	（公財）日本スポーツ協会	
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス、5大栄養素の役割と特徴①（糖質、脂質）
2	5大栄養素の役割と特徴②（たんぱく質、ミネラル、ビタミン）
3	アスリートの栄養摂取の考え方
4	サプリメント摂取に関する注意点
5	基本の食事・栄養補給
6	栄養・食事計画の立案①（減量、増量、貧血予防、）
7	栄養・食事計画の立案②（試合前、遠征時、疲労骨折予防、疲労回復・夏バテ、女性アスリート）
8	終講試験、まとめ

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	スポーツ心理学1	担当者名	長野　史尚

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	1				授業時間数	24					

授業概要	■動機づけと競技成績との関連性を把握し、動機づけを高める方法などについて学習していく。 ■スポーツ活動や運動のパフォーマンスを促進するために必要不可欠な心理的スキルを学習していく。 ■メンタルトレーニングの基礎を学習していく。 ■プレッシャーやあがりが発生するメカニズム、その対処法の基礎を学習していく。
成績評価	■出席点 ■終講試験 ■授業への取り組み姿勢
その他	磯貝浩久（実務経験なし）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	リファレンスブック	（公財）日本スポーツ協会	
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	スポーツにおける動機づけ
2	メンタルマネジメント①（メンタルトレーニング）
3	メンタルマネジメント②（リラクセーション）
4	メンタルマネジメント③（他者観察）
5	メンタルマネジメント④（個人差を考慮したコーチング、日常における相談）
6	メンタルマネジメント⑤（運動感覚、運動学習）
7	メンタルマネジメント⑥（フィードバック、心理的サポート・集中力）
8	メンタルマネジメント⑦（イメージトレーニング）
9	メンタルマネジメント⑧（あがり、プレッシャー、スランプについて）
10	メンタルマネジメント⑨（性格/自己概念）
11	メンタルマネジメント⑩（心理的コンディショニング）
12	終講試験、まとめ
13	
14	
15	

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	トレーナー基礎演習	担当者名	都地　英雄

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数		30				

授業概要	・他教科の復習も踏まえ、解剖学を中心にスポーツ指導者として必要な基礎知識を身につけることを目的とする。
成績評価	■終講試験(筆記)、出席点、課題点、授業態度で評価
その他	都地英雄（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	トレーニング指導者テキスト[理論編]	日本トレーニング指導者協会	大修館書店
参考図書	公認アスレティックトレーナー専門テキスト②　運動器の解剖と機能	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂

回数	授　業　計　画
1	解剖学～骨～
2	解剖学～骨の部位～
3	上肢の解剖学～関節、靭帯～
4	上肢の解剖学～関節、靭帯～
5	上肢の解剖学～筋肉～
6	上肢の解剖学～筋肉～
7	体幹の解剖学～関節、靭帯～
8	体幹の解剖学～関節、靭帯～
9	体幹の解剖学～筋肉～
10	体幹の解剖学～筋肉～
11	下肢の解剖学～関節、靭帯～
12	下肢の解剖学～関節、靭帯～
13	下肢の解剖学～筋肉～
14	下肢の解剖学～筋肉～
15	終講試験

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	アスレティックトレーナーの役割	担当者名	川上　吉晃

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数	30					

授業概要	・スポーツ環境におけるｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰの役割とその業務を具体的に示し、歴史的背景や趣旨、設立に至った背景および諸外国の状況を理解し、ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰの組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチ、スポーツドクターなど各分野の専門家と連携を取って選手をサポートするなど現場で活動する上で必要な知識および社会的秩序や倫理観を身につけることをねらいとする。
成績評価	■試験・・・70% ■出席率・・・20% ■授業態度・・・10%
その他	川上吉晃（スポーツジムにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	日本スポーツ協会ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ専門科目テキスト1	公益財団法人日本スポーツ協会	株式会社　文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	アスレティックトレーナーとは 制度の歴史
2	諸外国におけるｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ制度
3	ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰの任務と役割
4	ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰの業務
5	ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰの活動
6	医科学スタッフの構成と役割 スポーツドクターとの連携・協力
7	コーチとの連携・協力 スポーツドクターとの連携・協力
8	ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰの組織と運営
9	ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰの目的と社会的立場
10	社会と秩序
11	ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰの倫理
12	医療関係法規
13	ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰと法的諸問題
14	まとめ 復習テスト
15	終講試験

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	トレーニング科学2	担当者名	辰見　康剛

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数		30				

授業概要	・トレーニングの基本的概念 ・トレーニングの種類と科学的基礎 ・トレーニング効果の評価　・トレーニングと性 ・トレーニングと発育・発達　・トレーニングと老化 ・トレーニングと栄養　・疲労と疲労回復 ・オーバートレーニング
成績評価	■出席率 ■授業態度 ■実技試験の総合評価
その他	辰見康剛（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	「トレーニングの科学的基礎-現場に通じるトレーニング科学の基礎」	宮下 充正	ブックハウスHD
参考図書	トレーニング指導者テキスト[理論編]	日本トレーニング指導者協会	大修館書店

回数	授　業　計　画
1	トレーニングの基礎的概念 トレーニングの原則
2	トレーニングの分類
3	トレーニングの条件
4	トレーニングの種類と科学的基礎、スピードの向上について
5	筋力、筋持久力、全身持久力について
6	柔軟性、敏捷性、バランス、協調性について
7	トレーニング効果の評価
8	トレーニングと性
9	トレーニングと発育・発達
10	トレーニングと老化
11	トレーニングと栄養
12	疲労と疲労回復
13	オーバートレーニングについて
14	総まとめ
15	テスト

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	トレーニング指導者実習					担当者名		川上　吉晃・吉田　裕也			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						40					

授業概要	・各マシントレーニングをの使用方法・注意点を理解し、正しいフォームを身に付ける。対象者に対し効果的かつ安全に指導ができるようになる。 ・トレーニング指導者として、安全かつ効率的にトレーニング指導ができるようになる。
成績評価	■筆記試験、実技試験にて評価
その他	川上吉晃（スポーツジムにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）、吉田裕也（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	トレーニング指導者テキスト[実践編]	日本トレーニング指導者協会	大修館書店
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス、筋力トレーニングの実際
2	上肢のマシントレーニング　座学①
3	上肢のマシントレーニング　実技①
4	上肢のマシントレーニング　座学②
5	上肢のマシントレーニング　実技②
6	下肢のマシントレーニング　座学①
7	下肢のマシントレーニング　実技①
8	下肢のマシントレーニング　座学②
9	下肢のマシントレーニング　実技②
10	実技試験①
11	上肢のフリーウェイト種目　実技①
12	上肢のフリーウェイト種目　実技②
13	下肢のフリーウェイト種目　実技①
14	下肢のフリーウェイト種目　実技②
15	パワー向上トレーニング　パワーリフト系種目　　実技①
16	パワー向上トレーニング　パワーリフト系種目　　実技②
17	プログラミング　　座学
18	プログラミング　　実技
19	その他トレーニング種目　実技
20	実技試験②

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	バイオメカニクス	担当者名	後藤　平太

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数		30				

授業概要	・バイオメカニクス基本理論 （筋の仕組みと働き　・筋活動のエネルギー供給　・運動の指令と調節　・身体の構造と運動　・身体運動の力学的基礎） ・バイオメカニクスの実際-各種動作のバイオメカニクス- （歩行動作　・走動作　・跳動作　・投動作　・蹴動作　・滑動作　・泳動作　・漕動作　・漕動作 ）
成績評価	■出席率、授業態度、テスト成績にて評価
その他	後藤平太（実務経験なし）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	スポーツバイオメカニクス入門	金子 公宥	杏林書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	筋の仕組みと働き
2	筋活動のエネルギー供給
3	運動の指令と調節
4	身体の構造と運動
5	身体運動の力学的基礎
6	歩行動作
7	走動作
8	跳動作
9	投動作
10	打動作
11	蹴動作
12	滑動作
13	泳動作
14	漕動動作(自転車)
15	漕動動作(ボート)

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	検査と測定の手法1	担当者名	吉井　剛

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	1				授業時間数			20			

授業概要	アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に実技ができるまでの能力を習得することをねらいとする。
成績評価	■終講試験 ■出席率　の総合評価とする。
その他	吉井剛（整形外科において理学療法士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ専門科目テキスト５「検査・測定の手法5」	公益財団法人日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	アスレティックトレーナーによる評価の目的と意義および役割 機能評価のプロセス
2	機能評価に必要な検査測定とプログラムの立案
3	姿勢・身体アライメントの観察、計測の目的と意義
4	姿勢・身体アライメントの観察、計測方法・関節弛緩性検査の目的と意義
5	関節弛緩性に関する検査・測定
6	関節可動域検査の目的と意義
7	関節可動域の計測方法・関節可動域に影響をあたえる筋群のタイトネスの検査測定方法
8	筋萎縮に関する検査の目的と意義・筋萎縮や筋肥大の程度と観察方法
9	徒手的筋力検査の目的と意義・徒手的筋力検査の具体的方法(指定図書による)
10	終講試験、総括
11	
12	
13	
14	
15	

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	検査と測定の手法2	担当者名	吉井　剛

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	1				授業時間数			20			

授業概要	アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に実技ができるまでの能力を習得することをねらいとする。
成績評価	■終講試験 ■出席率　の総合評価とする。
その他	吉井剛（整形外科において理学療法士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ専門科目テキスト５「検査・測定の手法5」	公益財団法人日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力の検査測定の目的と意義
2	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力を測定検査する具体的手法
3	全身持久力の検査測定の目的と意義・全身持久力の評価指標
4	全身持久力を測定検査する具体的手法
5	敏捷性および協調性の検査測定の目的と意義
6	敏捷性および協調性を測定検査する具体的手法
7	身体組成の検査測定の目的と意義
8	身体組成を測定検査する具体的方法・キャリパーを用いた身体組成計測
9	一般的な体力測定の検査項目その目的、概要
10	終講試験、総括
11	
12	
13	
14	
15	

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	運動処方論	担当者名	川上　吉晃

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数				30		

授業概要	・健康の維持・増進のための運動が行なわれている。しかし運動強度、頻度、時間など実施方法を間違えると健康の維持どころか健康を害する。正しい運動処方ができるよう、運動処方の理論と実際について実習を含めて学んでいく。
成績評価	■出席率・・・30% ■日常点・・・10% ■定期試験・・・60%
その他	川上吉晃（スポーツジムにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	健康運動実践指導者養成用テキスト	健康・体力づくり事業財団	株式会社　南江堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	運動効果と運動不足が健康に与える影響
2	トレーニングの原則と効果
3	エクササイズガイドについて
4	健康づくりのための運動プログラム① (作成上のポイントについて)
5	健康づくりのための運動プログラム② (加齢やトレーニング、環境による変化について)
6	健康づくりのための運動プログラム③ (ウォーミングアップとクーリングダウンについて)
7	有酸素運動の特徴と効果①
8	有酸素運動の特徴と効果②
9	有酸素運動の特徴と効果③
10	肥満と運動
11	糖尿病と運動
12	高血圧および脂質異常症と運動
13	虚血性心疾患と運動
14	高齢者と運動
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	体力測定法	担当者名	川上　吉晃

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	1				授業時間数			16			

授業概要	・健康・体力に関連するさまざまな体力要素（身体組成、全身持久力、筋力・筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性）について、測定方法の実習とその評価を行い、スポーツ指導者としての基礎的能力を養う。
成績評価	■出席率・・・30% ■日常点・・・10% ■定期試験・・・60%
その他	川上吉晃（スポーツジムにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	健康運動実践指導者養成用テキスト	健康・体力づくり事業団	南江堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	体力の概念
2	測定①（無酸素性能力・有酸素性能力）
3	測定②（最大酸素摂取量-直接法・関節法-）
4	測定③（無酸素性代謝閾値）
5	測定④（体脂肪量-インピーダンス・皮脂厚法）
6	体力テストの測定（体力テスト・エクササイズガイド）
7	体力テストの評価活用方法
8	まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	テーピング・手技療法実習	担当者名	加納　賢一

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数				1	授業時間数	30					

授業概要	・スポーツ指導者に必要なテーピングとストレッチング（パーソナル）を習得する
成績評価	■実技試験において総合評価
その他	加納賢一（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務））

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	必要に応じて資料配布		
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	イントロダクション
2	上肢のテーピング１
3	上肢のテーピング２
4	下肢のテーピング１
5	下肢のテーピング２
6	体幹のテーピング
7	あん摩法の基礎
8	あん摩法の応用
9	マッサージ法の基礎
10	マッサージ法の応用
11	指圧法の基礎
12	指圧法の応用
13	スポーツマッサージの基礎
14	スポーツマッサージの応用
15	総括、実技試験

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	トレーニング指導者理論1	担当者名	吉田　裕也

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数	30					

授業概要	・一般人からトップアスリートまで、あらゆる対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムの作成と指導するための知識を身に付けることを目標とする。
成績評価	■出席点15% ■平常点15% ■定期試験70%(100点満点で7割計算)
その他	吉田裕也（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	トレーニング指導者テキスト(理論編)	NPO法人日本トレーニング指導者協会	大修館書店
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス
2	トレーナーとしてのコミュニケーションツール
3	機能解剖(各称・関節)
4	機能解剖(各称・関節)・小テスト
5	機能解剖(動き)
6	機能解剖(動き)・小テスト
7	機能解剖(全身の骨格・関節)
8	機能解剖(全身の骨格・関節)・小テスト
9	機能解剖(上肢の筋)・小テスト
10	機能解剖(上肢の筋)
11	機能解剖(体幹の筋)・小テスト
12	機能解剖(下肢の筋)
13	機能解剖小テスト
14	総括・試験対策
15	終講試験

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	トレーニング指導者理論2	担当者名	吉田　裕也

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数		30				

授業概要	・トレーニング指導者として、安全かつ効率的にトレーニング指導ができるようになる医科学的な基礎を構築する。
成績評価	■出席点・・・15% ■平常点・・・15% ■定期試験・・・70%(100点満点で7割計算)
その他	吉田裕也（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	トレーニング指導者テキスト(実践編)	NPO法人日本トレーニング指導者協会	大修館書店
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	実力テスト(一般)
2	実力テスト(専門)
3	1章　トレーニング指導者論
4	2章　各種トレーニング法の理論とプログラム1～2節(トレーニング計画の立案・総論、筋力トレーニングのプログラム作成)
5	2章　各種トレーニング法の理論とプログラム3～6節①(持久力・スピード・柔軟性向上トレーニングの理論とプログラム作成)
6	2章　各種トレーニング法の理論とプログラム3～6節②(持久力・スピード・柔軟性向上トレーニングの理論とプログラム作成)
7	2章　各種トレーニング法の理論とプログラム7節(特別な対象のためのトレーニングとプログラム)
8	2章　各種トレーニング法の理論とプログラム8節(傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム) 3章　各種トレーニング法の実際1節(筋力トレーニングの実際)
9	3章　各種トレーニング法の実際2～3節(パワー・持久力向上トレーニングの実際)
10	3章　各種トレーニング法の実際4～5節(スピード・柔軟性向上トレーニングの実際)
11	4章　トレーニング効果の測定と評価1節(トレーニング効果の測定と評価の実際)
12	5章　トレーニングの運営と情報活用1節～2節(トレーニングの運営、運動指導のための情報収集と活用)
13	模擬試験(一般)
14	模擬試験(専門)
15	総括

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	運動生理学	担当者名	満園　良一

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数	30					

授業概要	・筋収縮とエネルギー供給　・筋繊維の種類とその特徴 ・神経系による運動の調節　・運動と呼吸 ・運動と循環　・運動と内分泌 ・運動と代謝　・身体組成と肥満 ・運動時の水分・栄養摂取　・運動と体温調節 ・運動と環境　・運動と発育・発達
成績評価	■出席率・授業態度・小テスト・・・30% ■定期試験・・・30%
その他	満園良一（実務経験なし）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	運動生理学20講	勝田茂、征矢英昭他	朝倉書店
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス
2	運動生理学の歴史と全容
3	神経と筋、神経と運動
4	筋の特性と筋繊維
5	筋の収縮様式
6	筋力に影響する要因とトレーニング
7	運動とATP代謝
8	運動と呼吸・循環
9	運動と身体組成
10	運動とホルモン
11	運動と糖・脂質・蛋白代謝
12	運動とドーピング
13	健康の運動生理学
14	運動処方、運動と環境
15	終講試験

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	運動器の解剖と機能1	担当者名	中田　浩一

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	1				授業時間数	20					

授業概要	・アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ傷害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解する。 ・そのために、運動器の骨、筋、靭帯、関節、支配神経と身体運動とを関連づけて学習することをねらいとする。
成績評価	■終講試験、出席率で評価
その他	中田浩一（リハビリテーション科において理学療法士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー専門テキスト②　運動器の解剖と機能	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	体表区分、運動の表し方
2	運動器の構造と機能
3	運動器の構造と機能　関節軟骨～筋収縮様式
4	運動器の構造と機能　筋腱複合体～骨格筋神経支配
5	運動器の構造と機能　骨格筋感覚器～随意運動
6	体幹の基礎解剖と運動　脊柱の運動
7	体幹の基礎解剖と運動　頚椎の運動～胸椎・胸郭の運動
8	体幹の基礎解剖と運動　腰椎・仙椎・骨盤の運動
9	まとめ
10	試験
11	
12	
13	
14	
15	

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	運動器の解剖と機能2	担当者名	中田　浩一

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	1				授業時間数	20					

授業概要	・アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ傷害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解する。 ・そのために、運動器の骨、筋、靭帯、関節、神経支配と身体運動とを関連づけて学習することをねらいとする。
成績評価	■終講試験、出席率で評価
その他	中田浩一（リハビリテーション科において理学療法士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー専門テキスト②　運動器の解剖と機能	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	上肢帯の運動
2	肩関節の運動　骨格、関節運動
3	肩関節の運動　筋、血管と神経
4	肘関節の運動　骨格、構成～形態
5	肘関節の運動　構成靭帯～肘関節の運動
6	肘関節の運動　筋、神経
7	手関節・手の運動　遠位橈尺関節、手関節
8	手関節・手の運動　手関節・手の筋、血管と神経
9	まとめ
10	試験
11	
12	
13	
14	
15	

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	運動器の解剖と機能3	担当者名	中田　浩一

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	1				授業時間数		20				

授業概要	・アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ傷害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解する。 ・そのために、運動器の骨、筋、靭帯、関節、神経支配と身体運動とを関連づけて学習することをねらいとする。
成績評価	■終講試験、出席率で評価
その他	中田浩一（リハビリテーション科において理学療法士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー専門テキスト②　運動器の解剖と機能	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	股関節の機能解剖と運動　解剖、骨の形態
2	股関節の機能解剖と運動　股関節の動き、周囲の筋群・疾患
3	膝関節の運動　骨格、構造
4	膝関節の運動　靭帯、運動、筋、血管・神経
5	足関節・足部の運動　骨格、関節
6	足関節・足部の運動　運動、筋(外在筋)
7	足関節・足部の運動　筋(固有筋)～神経・血管・アーチ
8	まとめ
9	試験
10	AT理論模擬試験（解剖学分野）
11	
12	
13	
14	
15	

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	スポーツ栄養学2	担当者名	静間　佳代子

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数				30		

授業概要	・アスリートの身体組成、からだ作りとウェイトコントロール ・ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞｽｹｼﾞｭｰﾙ、競技特性と食事、ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾆﾝｸﾞと栄養摂取、水分補給 ・栄養欠陥に基づく疾病と対策 ・特殊環境下における栄養ケア ・サプリメントの利用時の留意点 ・アスリートの栄養教育
成績評価	■出席点 ■日常点 ■終講試験
その他	静間佳代子（食品会社において栄養士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑨「スポーツと栄養」	公益財団法人日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	スポーツ栄養サポート、アスリートの身体組成について
2	アスリートのからだづくりについて
3	アスリートのからだづくりについて
4	アスリートのウエイトトレーニングについて
5	トレーニングスケジュール（競技特性と食事）について
6	トレーニングスケジュール（競技特性と食事）について
7	水分補給について
8	栄養欠陥に基づく疾病と対策について
9	栄養欠陥に基づく疾病と対策について
10	様々な状況下における栄養ケアについて
11	様々な状況下における栄養ケアについて
12	サプリメントと栄養エルゴジェニックについて
13	アスリートの栄養指導、学校教育について
14	まとめ
15	終講試験

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	スポーツ心理学2	担当者名	磯貝　浩久

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数				30		

授業概要	1）スポーツと認知　2）動機づけ 3）目標設定　4）運動の学習 5）スポーツと発達　6）競技者の性格と態度 7）パーソナリティ　8）メンタルトレーニング 9）スポーツカウンセリング
成績評価	■出席点 ■平常点 ■終講試験
その他	磯貝浩久（実務経験なし）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	スポーツメンタルトレーニング教本	日本スポーツ心理学会他	大修館書店
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	競技力向上とメンタルトレーニング
2	メンタルトレーニングの導入
3	メンタルトレーニングの展開
4	メンタルトレーニングの実施上の原則
5	メンタルトレーニング技法の基礎（評価技法）
6	情動のコントロール
7	注意集中技法
8	リラクセーション技法
9	メンタルトレーニングの基礎
10	スポーツ集団の評価
11	競技意欲開発・あがり
12	集中力向上トレーニング
13	チームワーク向上
14	メンタルトレーニングの実例
15	まとめ・集中講義

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	救急処置	担当者名	都地　英雄

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数		30				

授業概要	・救急処置の基本的知識を学ぶことを目標とする。
成績評価	■終講試験(筆記)、出席点、授業内点、小テストで評価
その他	都地英雄（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務））

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー　専門テキスト⑧　救急処置	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	救急処置の基本的知識・スポーツ現場における救急処置
2	外傷時の救急処置(RICE処置)
3	緊急時の救急処置(心肺蘇生)
4	緊急時の救急処置(心肺蘇生)
5	外傷時の救急処置(皮膚などに傷のあるけがの処置)
6	外傷時の救急処置(特殊な外傷の救急処置)
7	外傷時の救急処置(患部の固定法、運搬方法)
8	緊急時の救急処置(頭頚部、脊柱外傷時)
9	緊急時の救急処置(頭頚部、脊柱外傷時)
10	現場における救急体制の重要性と計画
11	内科的疾患の救急処置
12	内科的疾患の救急処置
13	その他内科的疾患、現場における救急体制の実際
14	終講試験
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	AT概論１	担当者名	浪尾　敬一

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数			30			

授業概要	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキストの記載内容を確認し、理解を深め、アスレティックトレーナーとして求められる知識を身につける事を目的とする。
成績評価	■筆記試験、出席点、授業態度などで評価
その他	浪尾敬一（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①、②、③、④、⑤	公益財団法人日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	アスレティックトレーナーの役割
2	アスレティックトレーナーの役割
3	運動器の解剖と機能
4	運動器の解剖と機能
5	運動器の解剖と機能
6	スポーツ外傷・障害の基礎知識
7	スポーツ外傷・障害の基礎知識
8	スポーツ外傷・障害の基礎知識
9	健康管理とスポーツ医学
10	健康管理とスポーツ医学
11	健康管理とスポーツ医学
12	検査・測定と評価
13	検査・測定と評価
14	検査・測定と評価
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	AT概論２	担当者名	浪尾　敬一

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数			30			

授業概要	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキストの記載内容を確認し、理解を深め、アスレティックトレーナーとして求められる知識を身につける事を目的とする。
成績評価	■筆記試験、出席点、授業態度などで評価
その他	浪尾敬一（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥、⑦、⑧、⑨	公益財団法人日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	予防とコンディショニング
2	予防とコンディショニング
3	予防とコンディショニング
4	アスレティックリハビリテーション
5	アスレティックリハビリテーション
6	アスレティックリハビリテーション
7	救急処置
8	救急処置
9	スポーツと栄養
10	スポーツと栄養
11	救急処置（固定法）
12	救急処置（固定法）
13	救急処置（固定法）
14	救急処置（固定法）
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	AT概論3	担当者名	都地　英雄

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数			30			

授業概要	・AT理論試験過去問題を学ぶことで、トレーナーとしての知識を高めることを目標とする。
成績評価	■終講試験(筆記)、出席点、授業態度などで評価
その他	都地英雄（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー専門テキスト②　運動器の解剖と機能　　公認アスレティックトレーナー　専門テキスト⑧	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	AT理論試験過去問題平成26年『救急処置』
2	AT理論試験過去問題平成27年『救急処置』
3	AT理論試験過去問題平成28年『救急処置』
4	AT理論試験過去問題平成29年『救急処置』
5	AT理論試験過去問題平成30年『救急処置』
6	AT理論試験過去問題令和1年『救急処置』
7	AT理論試験過去問題平成26年『運動器の解剖と機能』
8	AT理論試験過去問題平成27年『運動器の解剖と機能』
9	AT理論試験過去問題平成28年『運動器の解剖と機能』
10	AT理論試験過去問題平成29年『運動器の解剖と機能』
11	AT理論試験過去問題平成30年『運動器の解剖と機能』
12	AT理論試験過去問題令和1年『運動器の解剖と機能』
13	AT理論試験過去問題平成24、25年『救急処置』、『運動器の解剖と機能』
14	終講試験
15	復習

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	AT概論4	担当者名	吉田　裕也

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	1				授業時間数				20		

授業概要	・AT理論試験過去問題を学ぶことで、トレーナーとしての知識を高めることを目標とする。
成績評価	■終講試験(筆記)、出席点、授業態度などで評価
その他	吉田裕也（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー専門テキスト④健康管理とスポーツ医学	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	実力試験　前半
2	実力試験　後半
3	A.アスリートにみられる内臓器官などの疾患
4	A.アスリートにみられる内臓器官などの疾患　＋　B.感染症に対する対応策
5	B.感染症に対する対応策　＋　C.アスリートに見られる病的現象
6	C.アスリートに見られる病的現象　＋　D.特殊環境のスポーツ医学
7	D.特殊環境のスポーツ医学　＋　E.年齢・性別による特徴
8	E.年齢・性別による特徴　＋　G.ドーピングコントロール
9	終講試験　前半
10	終講試験　後半

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	AT概論5	担当者名	都地　英雄

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数			30			

授業概要	・AT理論試験過去問題を学ぶことで、トレーナーとしての知識を高めることを目標とする。
成績評価	■終講試験(筆記)、出席点、授業態度などで評価
その他	都地英雄（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー　専門テキスト⑦　アスレティックリハビリテーション	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	AT理論試験過去問題平成26年『アスレティックリハビリテーション』
2	AT理論試験過去問題平成26年『アスレティックリハビリテーション』
3	AT理論試験過去問題平成27年『アスレティックリハビリテーション』
4	AT理論試験過去問題平成27年『アスレティックリハビリテーション』
5	AT理論試験過去問題平成24,25年『アスレティックリハビリテーション』
6	AT理論試験過去問題平成28年『アスレティックリハビリテーション』
7	AT理論試験過去問題平成28年『アスレティックリハビリテーション』
8	AT理論試験過去問題平成29年『アスレティックリハビリテーション』
9	AT理論試験過去問題平成29年『アスレティックリハビリテーション』
10	AT理論試験過去問題平成30年『アスレティックリハビリテーション』
11	AT理論試験過去問題平成30年『アスレティックリハビリテーション』
12	AT理論試験過去問題令和1年『アスレティックリハビリテーション』
13	AT理論試験過去問題令和1年『アスレティックリハビリテーション』
14	終講試験
15	復習

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	スポーツ動作の観察と分析	担当者名	川上　吉晃

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	1				授業時間数			20			

授業概要	・ｱｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰが評価で必要となるスポーツ動作の観察・分について、その目的と意義を理解し、6つのスポーツ動作についてバイオメカニクス、動作に影響をあたえる機能的と体力的要因を説明できる能力を養うことを目的とする。
成績評価	■出席点・・・30% ■終講試験・・・60% ■授業態度・・・10%
その他	川上吉晃（スポーツジムにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	日本スポーツ協会公認ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ専門科目テキスト⑤		株式会社文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	評価におけるスポーツ動作の観察・分析の目的と意義
2	歩行のバイオメカニクス 歩行動作に影響する要因
3	走動作のバイオメカニクス 走動作に影響を与える機能的、体力要因
4	外傷の発生機転となるような走動作の特徴とメカニズム
5	ストップ・方向転換動作のバイオメカニクス ストップ・方向転換動作に影響を与える機能的、体力的要因
6	跳動作のバイオメカニクス、躍動作に影響を与える機能的、体力的要因 外傷の発生機転となるような跳動作の特徴とメカニズム
7	投動作のバイオメカニクス、投動作に影響を与える機能的、体力的要因 外傷の発生機転となる投動作の特徴と、メカニズム
8	あたり動作のバイオメカニクス、あたり動作に影響を与える機能的、体力的要因 外傷・障害の発生機転となるような動作の特徴とメカニズム
9	あたり動作のバイオメカニクス、あたり動作に影響を与える機能的、体力的要因 外傷・障害の発生機転となるような動作の特徴とメカニズム
10	総括
11	
12	
13	
14	
15	

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	コンディショニング1	担当者名	清田　祥之

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数			30			

授業概要	・各競技におけるコンディショニング方法を身につけプログラム立案や障害予防のための環境整備について学ぶことをねらいとする。
成績評価	■出席率 ■小テスト ■授業態度　にて評価
その他	清田祥之（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	日本スポーツ協会公認ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ専門科目テキスト⑥「予防とコンディショニング」	公益財団法人日本スポーツ協会	株式会社　文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	コンディショニングの把握と管理
2	競技力向上のためのコンディショニング方法 ・代謝系トレーニング・筋力トレーニング
3	競技力向上のためのコンディショニング方法 ・スタビリティトレーニング・コーディネーショントレーニング
4	競技力向上のためのコンディショニング方法 ・アジリティトレーニング・スプリントと持久トレーニング・サーキットトレーニング
5	傷害予防を目的としたコンディショニング方法 ・ストレッチング・テーピング・アイシング
6	傷害予防を目的としたコンディショニング方法 ・ストレッチング
7	傷害予防を目的としたコンディショニング方法 ・テーピング・アイシング
8	傷害予防を目的としたコンディショニング方法 ・アクアコンディショニング
9	傷害予防を目的としたコンディショニング方法 ・ウォーミングアップとクーリングダウン
10	競技種目特性とコンディショニング ・冬季競技について
11	競技種目特性とコンディショニング ・記録計競技
12	競技種目特性とコンディショニング ・球技系競技
13	競技種目特性とコンディショニング ・採点競技系
14	傷害予防に必要な環境整備
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	コンディショニング2	担当者名	原　賢二

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数				1	授業時間数			30			

授業概要	・各競技におけるコンディショニング方法を身につけプログラム立案や障害予防のための環境整備について学ぶことをねらいとする。
成績評価	■出席率 ■小テスト ■授業態度　にて評価
その他	原賢二（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	日本スポーツ協会公認ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ専門科目テキスト⑥「予防とコンディショニング」	公益財団法人日本スポーツ協会	株式会社　文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	ストレッチング
2	テーピング総論（定義、目的・有効性、注意点、基本テープ）
3	テーピング各論 足部、足関節
4	テーピング各論 下腿部、膝関節
5	テーピング各論 大腿部、股関節
6	テーピング各論 体幹（腰部、胸部）
7	テーピング各論 肩部（肩鎖関節、肩関節）
8	テーピング各論 肘関節、手関節
9	コンディショントレーニング （機能調整、回復、向上）
10	代謝系トレーニング （有酸素、無酸素計）
11	筋力トレーニング
12	コーディネーショントレーニング
13	スタビリティトレーニング
14	アジリティトレーニング
15	実技テスト

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	コンディショニング3	担当者名	清田　祥之

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数				1	授業時間数			30			

授業概要	・コンディショニング方法を実習、実技を通して講義で得た知識をさらに深くし、体得することにより予防的アプローチとして実践で使え指導できるようになることをねらいとする。
成績評価	■出席率 ■授業態度 ■実技テスト　にて評価
その他	清田祥之（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	日本スポーツ協会公認ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ専門科目テキスト ⑥「予防とコンディショニング」	公益財団法人日本スポーツ協会	株式会社文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	コンディショニングの実際
2	スプリントと持久トレーニング
3	サーキットトレーニング
4	ウォーミングアップ
5	クーリングダウン
6	アクアコンディショニング
7	フィールド（専門体力）テスト
8	フィットネス（基礎体力）チェック
9	身体組成測定
10	柔軟性テスト
11	各実技のおさらい
12	サーキットトレーニングのプログラミング
13	スプリントトレーニングのプログラミング
14	各プログラムプレ試験
15	各プログラム実技発表試験

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	ジュニアスポーツ理論	担当者名	寺本　敦司

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数				30		

授業概要	・子どもたちの安心し、成長に合わせたスポーツ環境を提供していく上で、必要なものを学習していく。 ・生涯にわたりスポーツに親しむ土壌を作るうえで、動きの発達、心理、栄養、医学といった方面の知識を習得していくことを目標としていく。
成績評価	■出席点･･･10% ■日常点･･･10% ■終講試験･･･80%
その他	寺本敦司（実務経験なし）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト	公益財団法人日本スポーツ協会	公益財団法人日本スポーツ協会
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	概論①
2	概論②
3	体力①
4	体力②
5	動きの発達①
6	動きの発達②
7	心理①
8	心理②
9	栄養①
10	栄養②
11	スポーツ医学①
12	スポーツ医学②
13	スポーツ医学③
14	女性とスポーツ①
15	女性とスポーツ②　まとめ

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	ジュニアスポーツ実技	担当者名	寺本　敦司

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数				1	授業時間数				16		

授業概要	理論で学習した内容を踏まえ、子どもたちの運動遊びの選定方法を知り、指導場面に生かせるようになる。 そして、安全管理の下、子どもたちが主体的に取り組むことができるようコーチングスキルの獲得を目指していく。
成績評価	出席点･･･15% 日常点（授業態度、積極性）･･･5% 試験･･･80%
その他	寺本敦司（実務経験なし）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト	公益財団法人日本スポーツ協会	公益財団法人日本スポーツ協会
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	コーチング
2	コーチング
3	コーチング
4	運動遊び･スポーツ
5	運動遊び･スポーツ
6	運動遊び･スポーツ
7	運動遊び･スポーツ
8	指導実習
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	SAQトレーニング実習	担当者名	油谷　信隆

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数				1	授業時間数	30					

授業概要	NPO法人日本SAQ協会SAQインストラクターレベル1資格取得を目標とする。
成績評価	資格試験合格をもって、単位認定とする。
その他	油谷信隆（スポーツジムにおいてトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	資料配布		
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	SAQ概論
2	講義（プリパレーション）
3	実技（プリパレーション）
4	講義（アジリティー）
5	講義（下肢のプライオメトリクス）
6	実技（アジリティ）
7	実技（下肢のプライオメトリクス）
8	講義（クイックネス）
9	講義（スピード）
10	実技（クイックネス）
11	実技（スピード）
12	実技/講義（体幹トレーニング）
13	実技（総合実習①）
14	実技（総合実習②）
15	実技（総合実習③）

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	アスレティックリハビリテーション1	担当者名	吉井　剛

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数			30			

授業概要	・アスレティックリハビリテーションの意味を知り、その実践にあたって必要となる基礎的知識の習得をねらいとする。 ・アスレティックリハビリテーションの中で最も主要となる各種エクササイズの基礎理論と方法について学び、補助的な手法となる物理療法の基礎理論を学ぶ。 ・対象者に妥当なエクササイズ指導と物理療法の正しいアドバイスができるようにすることをねらいとする。
成績評価	■終講試験にて評価
その他	吉井剛（整形外科において理学療法士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー　専門テキスト⑦　アスレティックリハビリテーション	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	アスレティックリハビリテーションの考え方①
2	アスレティックリハビリテーションの考え方②
3	運動療法の基礎知識①
4	運動療法の基礎知識②
5	運動療法の基礎知識③
6	運動療法の基礎知識④
7	物理療法①
8	物理療法②
9	物理療法③
10	物理療法④
11	足底板作成
12	足底板作成
13	まとめ
14	まとめ
15	テスト

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	アスレティックリハビリテーション2	担当者名	目良　寛巳

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数			30			

授業概要	・検査・測定の評価とアスレティックリハビリテーション基礎知識の知識統合の講義となる。 ・例題疾患へのアスレティックリハビリテーションの考え方と実際を学び、対象者に正しい指導ができる知識と技術の習得をねらいとする。 ・例題疾患の内容を応用し、他疾患についても正しい指導が実施できるようにする。
成績評価	■終講試験、出席率、授業態度で評価
その他	目良寛巳（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー　専門テキスト⑦　アスレティックリハビリテーション	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	頚椎捻挫へのアスレティックリハビリテーション
2	腰部疾患へのアスレティックリハビリテーション
3	肩関節前方脱臼へのアスレティックリハビリテーション
4	投球障害肩へのアスレティックリハビリテーション
5	外傷性肘MCL損傷へのアスレティックリハビリテーション
6	上腕骨内側・外側上顆炎・非外傷性MCL損傷へのアスレティックリハビリテーション
7	手関節捻挫
8	大腿屈筋肉離れへのアスレティックリハビリテーション
9	膝ACL損傷へのアスレティックリハビリテーション
10	膝MCL損傷へのアスレティックリハビリテーション
11	足関節捻挫へのアスレティックリハビリテーション
12	扁平足(過回内障害)へのアスレティックリハビリテーション
13	脛骨過労性骨障害・鵞足炎へのアスレティックリハビリテーション
14	膝蓋大腿関節障害へのアスレティックリハビリテーション
15	終講テスト実施

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	アスレティックリハビリテーション3	担当者名	目良　寛巳

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数				2	授業時間数			30			

授業概要	・検査・測定と評価、アスレティックリハビリテーション基礎知識の知識統合の講義である。例題疾患へのアスレティックリハビリテーションの考え方と実際を学び、競技種目特性に応じたアスレティックリハビリテーション指導を理解し、対象者に正しい指導が出来る知識と技術の習得をねらいとする。 ・また例題疾患の内容を応用し、他疾患についても正しい指導が実施できるようにする。
成績評価	■終講試験、出席率、授業態度で評価
その他	目良寛巳（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー　専門テキスト⑦　アスレティックリハビリテーション	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	腸脛靭帯炎、半月板損傷、FAIについて
2	整形外科的テスト実技
3	整形外科的テスト実技
4	整形外科的テスト実技
5	整形外科的テスト実技
6	グループワーク(評価・救急処置)
7	グループワーク(評価・救急処置)
8	グループワーク(メディカルリハビリテーション)
9	グループワーク(メディカルリハビリテーション)
10	グループワーク(アスレティックリハビリテーション)
11	グループワーク(アスレティックリハビリテーション)
12	ロールプレイ(実技)
13	ロールプレイ(実技)
14	競技特性について
15	終講テスト

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	スポーツ外傷と障害1	担当者名	岩本　英明　中島　秀彰 松岡　紗也香

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	・スポーツ外傷・障害総論 ・体幹のスポーツ外傷 ・上肢のスポーツ外傷 ・下肢のスポーツ外傷 ・整形外科的メディカルチェック
成績評価	■担当教員の終講試験を総合的に評価する。
その他	岩本英明（整形外科において医師として勤務） 中島秀彰（実務経験なし） 松岡紗也香（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト3 スポーツ外傷と障害の基礎知識	公益財団法人日本スポーツ協会	株式会社文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	スポーツ外傷、バーナー症候群
2	頸椎椎間板ヘルニア、頚髄症
3	腰椎椎間板ヘルニア、筋・筋膜性腰痛
4	鼠径部痛症候群①
5	スポーツ外傷と障害①
6	鼠径部症候群②
7	スポーツ外傷と障害②
8	スポーツ医学総論
9	スポーツ外傷と障害③
10	鼠径部症候群③、ばね股関節
11	肩部のスポーツ外傷・障害
12	肘関節のスポーツ外傷・障害
13	手・手指のスポーツ外傷・障害
14	大腿部のスポーツ外傷・障害
15	膝関節のスポーツ外傷・障害

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	スポーツ外傷と障害2	担当者名	山田　眞人、松岡　紗也香

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	・下肢のスポーツ外傷・障害 ・重篤な外傷 ・年齢・性別による特徴 ・整形外科的メディカルチェック
成績評価	■担当教員の終講試験を総合的に評価。
その他	山田眞人（外科において医師として勤務） 松岡紗也香（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト3 スポーツ外傷と障害の基礎知識	公益財団法人日本スポーツ協会	株式会社文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション・重篤な外傷、頭蓋骨骨折
2	重篤な外傷　脳損傷・脳震盪
3	重篤な外傷　脊髄損傷
4	重篤な外傷　胸郭部外傷
5	重篤な外傷　大出血
6	その他の外傷　顔面　小テスト
7	その他の外傷　目
8	その他の外傷　鼻・耳
9	その他の外傷　歯
10	年齢・性別による特徴　女性　小テスト
11	年齢・性別による特徴　成長期・高齢者
12	スポーツ整形外科的メディカルチェック　小テスト
13	期末試験
14	下肢のスポーツ外傷・障害①
15	下肢のスポーツ外傷・障害②

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	スポーツ医学2	担当者名	山田眞人、安永英樹、畠山昌久、松岡紗也香

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	・アスリートに見られる内臓器官などの疾患 ・感染症に対する対応策 ・アスリートにみられる病的現象・特殊環境のスポーツ医学 ・年齢・性別による特徴 ・内科的メディカルチェック ・ドーピングコントロール
成績評価	■担当教員の終講試験結果を総合的に評価する。
その他	山田眞人（外科において医師として勤務） 安永英樹（整形外科において医師として勤務） 畠山昌久（整形外科において医師として勤務） 松岡紗也香（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４	公益財団法人日本スポーツ協会	株式会社文光堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患・循環器疾患
2	成長期のスポーツ医学・アンチドーピング①
3	成長期のスポーツ医学・アンチドーピング②
4	アスリートにみられる内臓器官などの疾患・呼吸器・消化器疾患
5	アスリートにみられる内臓器官などの疾患・血液疾患・腎泌尿器疾患
6	アスリートにみられる内臓器官などの疾患・代謝性疾患
7	アスリートにみられる内臓器官などの疾患・皮膚疾患
8	感染症に対する対応策　呼吸器・血液・皮膚
9	感染症に対する対応策　ウイルス性結膜炎・海外遠征時に注意すべきもの・各競技別感染症
10	アスリートにみられる病的現象　オーバートレーニング症候群、突然死
11	アスリートにみられる病的現象　過換気症候群・摂食障害・減量による障害・喫煙・飲酒の問題
12	年齢・性別による特徴、高齢者のスポーツ医学
13	内科的メディカルチェック、総括
14	特殊環境のスポーツ医学①
15	特殊環境のスポーツ医学②

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	救急処置実習					担当者名	浪尾　敬一					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	・日本赤十字社救急法救急員の資格取得を目標とする。
成績評価	■資格取得をもって、単位認定とする。
その他	浪尾敬一（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	赤十字救急法基礎講習・救急法講習教本	日本赤十字社	日本赤十字社
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション
2	(学科)救急法救急員について
3	(学科・実技)心肺蘇生(胸骨圧迫・気道確保・人工呼吸)
4	(学科・実技)AEDを用いた除細動
5	(学科・実技)気道異物の除去・止血法
6	(学科)急病、ケガ
7	(学科)きずの手当
8	(実技)きずの手当①
9	(実技)きずの手当②
10	(学科)骨折の手当
11	(学科)搬送・救護
12	(実技)骨折の手当①
13	(実技)骨折の手当②
14	(実技)搬送・救護
15	総合実技

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	トレーナー実習1	担当者名	川上　吉晃、都地英雄、松岡紗也香、吉田　裕也

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	・スポーツ現場の見学を通してアスレティックトレーナーとして必要な資質を身につける事を目的とする。
成績評価	■出席率 ■日常点 ■レポート にて評価
その他	川上吉晃（スポーツジムにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 都地英雄（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 松岡紗也香（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 吉田裕也（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授 業 計 画（1時間あたり180分）
1	オリエンテーション
2	実習の心構え
3	体力測定法
4	体力測定法
5	障害者スポーツ競技大会見学
6	ギラヴァンツ北九州試合観戦
7	フィットネスクラブ見学
8	ボルグバレット北九州試合観戦
9	車イスバスケットボール試合観戦
10	アレアスフィットネスクラブ教室見学
11	
12	
13	
14	
15	

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	トレーナー実習2	担当者名	川上　吉晃、都地英雄、松岡紗也香、吉田　裕也

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	・アスレティックトレーナーとして検査・測定と評価、アスレティックリハビリテーションプログラムができるようになる。
成績評価	■筆記試験 ■実技試験 ■出席率　にて評価
その他	川上吉晃（スポーツジムにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 都地英雄（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 松岡紗也香（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 吉田裕也（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	日本スポーツ協会公認ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ専門科目テキスト⑤・⑦	公益財団法人日本スポーツ協会	株式会社　文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画（1時間あたり180分）
1	姿勢・身体アライメントの測定、関節弛緩性の測定
2	関節可動域の測定、筋タイトネスの測定
3	徒手筋力検査法の測定
4	機器を用いた筋力・筋パワーの測定
5	全身持久力の測定
6	敏捷性と協調性の測定、身体組成の測定
7	スポーツ動作の観察と分析１
8	上肢のアスレティックリハビリテーションプログラム
9	体幹のアスレティックリハビリテーションプログラム
10	下肢のアスレティックリハビリテーションプログラム
11	
12	
13	
14	
15	

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	トレーナー実習3	担当者名	川上　吉晃、都地英雄、松岡紗也香、吉田　裕也

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	・スポーツ現場でのアスレティックトレーナーの業務を実践できるような基礎づくり
成績評価	■実技試験 ■出席率 ■レポート　にて評価
その他	川上吉晃（スポーツジムにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 都地英雄（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 松岡紗也香（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 吉田裕也（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	日本スポーツ協会公認ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ専門科目テキスト ⑥「予防とコンディショニング」,公認アスレティックトレーナー	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画（1時間あたり180分）
1	ストレッチ実技
2	足関節のテーピング実技
3	外部施設実習
4	アレアス実習
5	アレアス実習
6	アレアス実習
7	アレアス実習
8	アレアス実習
9	北九州マラソン　AED隊サポート
10	アレアス実習
11	
12	
13	
14	
15	

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	トレーナー実習4	担当者名	川上　吉晃、都地英雄、松岡紗也香、吉田　裕也

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	・アスレティックトレーナーとしてアスレティックリハビリテーションが実践できるようになる。
成績評価	■実技試験、出席点、実習態度などで評価
その他	川上吉晃（スポーツジムにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 都地英雄（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 松岡紗也香（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 吉田裕也（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー専門テキスト③　スポーツ外傷・障害の基礎知識　　公認アスレティックトレーナー　専	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画（1時間あたり180分）
1	アスレティックトレーナーとは
2	アレアス実習
3	アレアス実習
4	アレアス実習
5	アレアス実習
6	アレアス実習
7	アレアス実習
8	体力測定実習
9	体力測定実習
10	アレアス実習
11	
12	
13	
14	
15	

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	トレーナー実習5	担当者名	川上　吉晃、都地英雄、松岡紗也香、吉田　裕也

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	・アスレティックトレーナー7つの役割の基本的な事項を行うことが出来るようになることを目的とする。
成績評価	■出席点、実習態度などで評価
その他	川上吉晃（スポーツジムにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 都地英雄（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 松岡紗也香（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 吉田裕也（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー専門テキスト①～⑨	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画（1時間あたり180分）
1	アレアス実習
2	アレアス実習
3	アレアス実習
4	アレアス実習
5	アレアス実習
6	アレアス実習
7	アレアス実習
8	アレアス実習
9	アレアス実習
10	アレアス実習
11	
12	
13	
14	
15	

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	トレーナー実習6	担当者名	川上　吉晃、都地英雄、松岡紗也香、吉田　裕也

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	・アスレティックトレーナー7つの役割の基本的な事項を行うことが出来るようになることを目的とする。
成績評価	■出席点、実習態度などで評価
その他	川上吉晃（スポーツジムにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 都地英雄（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 松岡紗也香（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務） 吉田裕也（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー専門テキスト①～⑨	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画（1時間あたり180分）
1	アレアス実習
2	スポーツ外傷と傷害の予防
3	スポーツ外傷と傷害の予防
4	スポーツ外傷と傷害の予防
5	スポーツ外傷と傷害の予防
6	スポーツ外傷と傷害の予防
7	スポーツ外傷と傷害の予防
8	スポーツ外傷と傷害の予防
9	スポーツ外傷と傷害の予防
10	スポーツ外傷と傷害の予防
11	
12	
13	
14	
15	

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	トレーナー応用実習1	担当者名	村上　智明・松岡　紗也香

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数				1	授業時間数				30		

授業概要	本講義では、スポーツ現場での傷害発生時の応急処置に必要なスペシャルテストなどの評価能力と応急処置を身につける事を目標とする。
成績評価	出席点、実習内点で評価
その他	村上智明（リハビリテーション技術課において理学療法士として勤務） 松岡紗也香（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３、専門科目テキスト５	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	上肢のスポーツ傷害評価
2	上肢のスポーツ傷害評価
3	体幹のスポーツ傷害評価
4	体幹のスポーツ傷害評価
5	上肢のスポーツ傷害評価
6	上肢のスポーツ傷害評価
7	下肢のスポーツ傷害評価
8	下肢のスポーツ傷害評価
9	下肢のスポーツ傷害評価
10	下肢のスポーツ傷害評価
11	上下肢のスポーツ傷害評価
12	上下肢のスポーツ傷害評価
13	下肢のスポーツ傷害評価
14	下肢のスポーツ傷害評価
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	トレーナー応用実習2	担当者名	松岡　紗也香

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数				1	授業時間数				30		

授業概要	本講義では、アスレティックトレーナーとしての適切な傷害の初期評価及び応急処置ができる事を目的とする。
成績評価	出席点、実習内点で評価
その他	松岡紗也香（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	下肢のスポーツ傷害評価と応急処置
2	下肢のスポーツ傷害評価と応急処置
3	下肢のスポーツ傷害評価と応急処置
4	上肢のスポーツ傷害評価と応急処置
5	上肢のスポーツ傷害評価と応急処置
6	上下肢のスポーツ傷害評価と応急処置
7	上下肢のスポーツ傷害評価と応急処置
8	上下肢のスポーツ傷害評価と応急処置
9	上下肢のスポーツ傷害評価と応急処置
10	上下肢のスポーツ傷害評価と応急処置
11	上下肢のスポーツ傷害評価と応急処置
12	上下肢のスポーツ傷害評価と応急処置
13	上下肢のスポーツ傷害評価と応急処置
14	実技試験
15	総括

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	トレーナー応用実習3	担当者名	都地　英雄

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数				1	授業時間数				30		

授業概要	・アスレティックトレーナーとして現場で必要なスキルを学ぶ事を目的とする。
成績評価	■出席点、授業態度などで評価
その他	都地英雄　（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー　専門テキスト⑥　コンディショニング　公認アスレティックトレーナー専門テキスト⑦　アスレティックリハビリテーション	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	テーピング～足関節～
2	テーピング～足底、踵骨部、下腿部～
3	テーピング～アキレス腱、足関節(底背屈制限)～
4	テーピング～アキレス腱、足関節(底背屈制限)～
5	レジスタンストレーニングとエアロビクスダンス
6	レジスタンストレーニングとエアロビクスダンス
7	レジスタンストレーニングとエアロビクスダンス
8	レジスタンストレーニングとエアロビクスダンス
9	テーピング～膝関節～
10	テーピング～膝関節～
11	テーピング～肘関節、肩関節～
12	テーピング～肘関節、肩関節～
13	アスレティックリハビリテーションプログラム立案
14	アスレティックリハビリテーションプログラム立案
15	テーピング～復習～

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	トレーナー応用実習4	担当者名	都地　英雄

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数				1	授業時間数				30		

授業概要	・アスレティックトレーナーとして現場で必要なスキルを学ぶ事を目的とする。
成績評価	■出席点、授業態度などで評価
その他	都地英雄　（スポーツチームにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	公認アスレティックトレーナー　専門テキスト⑥　コンディショニング　　公認アスレティックトレーナー専門テキスト⑦　アスレティックリハビリテーション	公益財団法人　日本スポーツ協会	文光堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	アスレティックリハビリテーション総論1
2	アスレティックリハビリテーション総論2
3	アスレティックリハビリテーションプログラム立案
4	アスレティックリハビリテーションプログラム立案・実施
5	アスレティックリハビリテーションプログラム立案
6	アスレティックリハビリテーションプログラム立案・実施
7	アスレティックリハビリテーションプログラム立案・実施
8	アスレティックリハビリテーションプログラム立案・実施
9	アスレティックリハビリテーションプログラム立案・実施
10	アスレティックリハビリテーションプログラム立案・実施
11	総復習
12	総復習
13	総復習
14	総復習
15	総復習

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	生涯スポーツトレーナー実習1	担当者名	川上　吉晃

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数				1	授業時間数			16			

授業概要	・生涯スポーツの観点から、柔軟性プログラムを対象者(個別～団体)の状況に応じて安全かつ効率的に指導できる。
成績評価	■筆記試験 ■実技試験　にて評価
その他	川上吉晃（スポーツジムにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	健康運動実践指導者　養成用テキスト	公益財団法人　健康・体力づくり事業財団	南江堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	ストレッチメカニズムについて
2	ストレッチの効能について
3	部位別プログラミング①
4	部位別プログラミング②
5	プログラミング実践（個別）
6	プログラミング実践（団体）
7	実技試験
8	総括

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	生涯スポーツトレーナー実習2	担当者名	川上　吉晃

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数				1	授業時間数				16		

授業概要	・アスリート以外のトレーニングを対象者の状況に応じて安全かつ効率的に指導できる。
成績評価	■筆記試験 ■実技試験　にて評価
その他	川上吉晃（スポーツジムにおいてアスレティックトレーナーとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	健康運動実践指導者　養成用テキスト	公益財団法人　健康・体力づくり事業財団	南江堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	スポーツ活動者（一般、障がい者など）を対象としたトレーニング指導者の役割
2	スポーツ活動者（一般、障がい者など）のレーニング計画の立案（総論）
3	スポーツ活動者（一般、障がい者など）の筋力トレーニングプログラム作成
4	スポーツ活動者（一般、障がい者など）のパワー向上トレーニングの理論とプログラム作成
5	スポーツ活動者（一般、障がい者など）の持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成
6	スポーツ活動者（一般、障がい者など）のスピード向上トレーニングの理論とプログラム作成
7	スポーツ活動者（一般、障がい者など）の障害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム作成①
8	実技試験

九州医療スポーツ専門学校
ＡＴ学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	フィットネスエクササイズ	担当者名	藤﨑　道子

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数				1	授業時間数				30		

授業概要	・有酸素運動の特性と効果を理解し、エアロビックダンス及びアクアビクスの基礎動作を習得する。また音楽に合わせた指示出しや指導ができるようになる。
成績評価	■健康運動実践指導者実技試験要項と同等の技能テストなどで評価
その他	藤﨑　道子　（フィットネスクラブでエアロビクスインストラクターとして勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	健康運動実践指導者　養成用テキスト	公益財団法人　健康・体力づくり事業財団	南江堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	水中運動の理論
2	水中運動の理論
3	エアロビックダンス体験、自重負荷トレーニングテスト(体力チェック) エアロビックダンス概論、有酸素運動の特性と効果
4	健康運動実践指導者の役割と社会に求められる指導者とは、 指導論
5	エアロビックダンス基本動作と運動強度について
6	キューイング(指導)をマスターする
7	指導力を高めよう(指導の循環)を理解する
8	健康運動実践試験に向けてのドリルワーク
9	レジスタンスEXの基本動作習得 健康づくりとレジスタンス運動の必要性(理論)
10	レジスタンスEXの指導法 指導ドリルワーク
11	健康運動実践試験に向けての復習(エアロビックダンス、レジスタンス)
12	エアロビックダンスのプログラム作成法(段階学習法、対象者別)
13	試験に向けての復習(エアロビックダンス、レジスタンス)
14	実技テスト(学内テスト)、フィードバック
15	まとめ(水中、陸上)、課題レポート